

地域における環境教育事業の展開と展望に関する研究
 -静岡市エコアッププログラム作成事業から-

○齊藤智樹*、熊野善介**

SAITO Tomoki*、KUMANO Yoshisuke**

静岡大学大学院*、静岡大学教育学部**

【キーワード】環境教育・エコアップ・地域環境力・アクションリサーチ・自己実現

1. はじめに

静岡市は平成 13 年度より「静岡市エコモデル推進事業」を進めている。静岡大学教育学部は、14 年度より静岡市の依頼を受け、本事業の一環として「エコアッププログラム作成事業」を開始した。

環境教育という言葉がはじめて公に使用されたのは、1970 年イギリスにおける会議までさかのぼる。以降 30 年余の環境教育を踏襲しつつも、21 世紀における静岡市ならではの環境教育を実践しようと試みた。

2. 目的

「環境共生のまちづくり」の推進の中核となる人材育成を目的とし、同一価値観を有する環境市民団体の自立支援を図るのではなく、環境に関心の薄い地域住民がどのようにエコアップするかを探り、地域における環境教育事業のモデルとなるプログラムを作成することを目的とする。

3. アクションリサーチ

静岡市と静岡大学とがあわせて、静岡市内の特定の地域に「幹事会」(核となるメンバーによる会議)を設け、そのメンバーと共に地域の環境力を伸ばしていくための方策を探していく。

その地域に適した活動、その地域の望んでいる活動を、話し合い・アンケート・観察会・講演会などを通して探り、引き出していくことが活動の主である。

今年度は既に町内観察会と講演会を、幹事会を主催として実施している。

3. 経過

現在、対象地区は昨年度の飯間地区から東新田地区に移っている。飯間地区との違いは、人口が格段に多いということである。飯間地区が中山間地域だったのに対し、東新田地区は比較的都市型の地域であると言える。

両者の違いは、環境問題との付き合い方に現れている。飯間地区の幹事会メンバーは身近にある環境問題を始めて認識するという方も少なかった。一方で東新田地区の幹事の方は何かしらの方法で環境問題と関わり、活動をしてきている。

4. 展望

飯間地区での活動主旨がキーパーソンの育成であったのに対して、東新田地区では既に活動を行なっているキーパーソン同士の合意による新たな活動を引き出すこと。また幹事会の内部での活動に留まらず、他の地域住民に対する活動をどう行なっていくのかを共に試行錯誤していくことが活動の主となりそうである。

【参考文献・資料】

熊野善介 (2003) 静岡市エコアッププログラム作成事業、環委第 22 号、『地域 (静岡市) に密着した環境負荷の少ないライフスタイルへの転換のための環境教育の企画・運営・実践に関する研究』

熊野善介 (2004) 『静岡市エコアッププログラム作成事業 報告書』

Robert N. Saveland 「Handbook of Environmental Education」1976, ICUN